

黄金浜で「無料大バザー」250人 「ありがたい、もっと来て」

24日



渡波地域の黄金浜会馆前で、24日無料バザーを行いました。
 地元の党支部と東京、神奈川の30人のボランティアスタッフが、トラック2台分の米、野菜、日用品、衣料品を無料配布しました。
 250人の被災者が集まりました。
 「物資支援はありがたいが、いつまでこんな生活が続くのか」、「この地域には物資支援があまり無いので、もっと来て欲しい」、「仕事も金も家も無い地獄のようだ」、「黄金浜は1000世帯のうち残ったのは150世帯。見捨てられた地域とも言える」などの深刻な声も寄せられました。

アンケート670人
気仙沼救援センター
要望もギッシリ
 気仙沼救援センターでは、6月7月に集中して物資のお届けとともに、アンケート用紙を配布し、仮設住宅を含めた被災者の要望を集約。現在670通が寄せられています。
 引き続き野菜や日用品がふそくしています。ポータブルトイレ、オモチャ、食器の要望も特徴的でした。
 さらに、「仕事が無い。何とかならないか」、「2年後に仮設を出されると思うと不安」など要望や不安がギッシリと書き込まれています。

この間の救援センターの活動

石巻、東松島
 女川、南三陸

救援物資お届け	(約) 20,065人
無料バザー	270回
ボランティア数	3,000人
要望聞き取り	32ヶ所 553人
原発撤退署名	2,000筆突破



仮設住宅に

網戸設置決まる。早く取り付けて

日本共産党市議団は仮設住宅のみなさんの聞き取りで、玄関に網戸を設置して欲しいという要望がたくさん寄せられました。その声を市議会にとだけ設置を求めてきました。

その結果、宮城県府の責任で網戸が設置されることになりました。

そのお知らせピラを仮設住宅に届けました。住民から「暑いし、ハエが入るし、網戸設置はありがたい」、「一日も早く入れて欲しい」との声が多く寄せられました。

被災地のみなさまへ
 心からのお見舞いを申し上げます。皆様毎日どのような暮らしをいらつしやるかと心を痛めております。このところ三十度を超える猛暑が続く、天気予報は毎日気になります。
 未だに復興は進まず、私たちもやりきれない思いですが、余震が続く中、皆様の生活やお気持ちはいかにばかりとお察し致します。私たちも微力ながら皆様に心を寄せて共に力になりたいと思っています。
 今回は日焼け止めクリーム他を会員につのり、送りました。どうか武蔵野にも皆さんの希望を後押しして、共に頑張ろうと思っている女性たちがいることを忘れないで下さい。
 しばらく暑い季節が続きますが、お体に気をつけて無理をなさらないように。

(新日本婦人の会 東京武蔵野支部から救援物資とともに届いた手紙の一部の紹介です)